

推奨学年：
第1学年～

小学生のおんがく P.15

「手拍子で リレー」

育てたい力

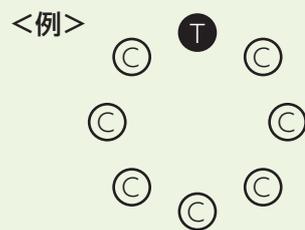
- ・ 友達の音をよく聴き、拍を感じ取って即興的に表現する。
- ・ 拍の有無や速度、強弱の変化などに気付き、そのよさや面白さを感じ取って表現を工夫する。

教具

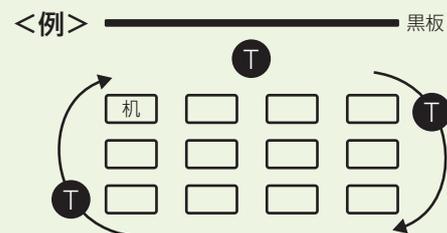
クラベス、カスタネット、ハンドドラムなどの拍を示す楽器、指導用オルガンに内蔵されているリズムボックスなど

場の設定

- ・ 机のない教室では、子供◎が輪になって座り、リーダー（指導者●または代表の子供）も輪に加わる。



- ・ 机のある教室では、音を回す順番を確認しておき、表現する子供の近くに指導者が移動するなど、見取りやすい位置を工夫する。



1 規則的な拍のリレー

一人一人の音をよく聴いて、拍を感じ取りながら手拍子でリレーする。

- 1 一人1拍ずつ順に手拍子で打ってリレーをする。うまく回せるようになったら、2回繰り返したり逆回りにしたりする。

ポイント

- ・うまくリレーできないときは、原因を考え、流れを止めないように一人一人の音をはっきりと打てるようにすることや、誰が打っているのかをしっかりと目で追うようにするなど、ルールを決めて行います。
- ・慣れるまでは指導者がスタートの合図を行うとよいでしょう。

<例>  先生がクラベスで ♪♪♪♪ と打ったら始めてください。

 先生の代わりにスタートの合図をしてくれる友達はいませんか。

- 2 規則的な拍打ちに合わせて、リーダーから一人1拍ずつ順に手拍子で打って、リレーする。

- 1) 指導者が楽器で打つ拍打ち (♩=100 ぐらいの速度) に合わせて、子供が一人ずつ順に手拍子で打ってリレーする。
- 2) 速度を変えてリレーする。
 - ・速くする (♩=120 ♩=140 など) ・遅くする (♩=80 ♩=60 など)

ポイント

- ・指導用オルガンのリズムボックスを流したり、指導者が楽器で拍打ちをしたりして、速度を一定に保てるようにすることが大切です。

2 あいまいな拍のリレー

一人一人の音をよく聴いて、あいまいな拍を感じ取りながら表現を工夫し、手拍子でリレーする。

- 1 前の人に続けて、できるだけ速く手拍子で打ってリレーする(「手拍子回し」とも呼ぶ)。

ポイント

- ・始めは、前の人を抜かして手拍子を打ってしまう、よそ見をしていて自分の番で打てずに流れが止まってしまうなど、リレーをうまく回せないことがあります。一人一人が「前の人の手拍子の音をよく聴いて自分の番で打つことが大切」だということを考えて行くと、学級全体が集中して速く回せるようになります。
- ・二人～三人が円の中心で目を閉じて音を聴くと、手拍子の音が自分の周りを走っていくような面白さを感じることもできます。

2 それぞれが様々な「間」をつくり、自由なタイミングで手拍子で打ってリレーをする。

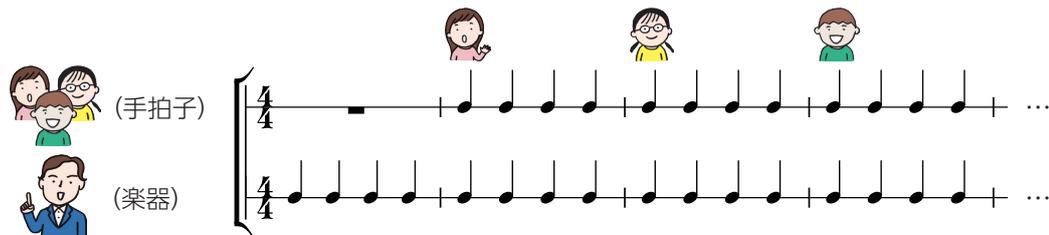
ポイント

- ・ 1と同様に、二人～三人が円の中で目を閉じて音を聴いてみると、「間」や「沈黙」が生み出す面白さをより感じることができます。
- ・ あいまいな拍のリレーでは、規則的な拍のリレーやできるだけ速く回すリレーではあまり感じられなかった、手拍子の「音色」にも着目できます。手のひらをくぼませて打って音色を変化させたり、打つ指の本数を変えて弱い音にしたりするなど工夫している子供のアイデアを学級全体で共有して試すことで手拍子の表現が広がります。

3 いろいろな拍子のリレー

4拍子、3拍子、2拍子などの拍子を決めてリレーする。

1 指導者が楽器で打つ4拍の拍打ち（♩=100ぐらい）に合わせて、一人ずつ順に手拍子で4拍の拍打ちをする。



2 3拍子、2拍子の拍打ちに合わせて、一人ずつ順に拍の数を変えて拍打ちをする。

ポイント

- ・ 慣れてきたら1拍目を足踏みに変えてリレーすることで、拍のまとまりをより感じ取ることができます。
- ・ 指導者が拍を示す際は、指導用オルガンのリズムボックスなどで代用すると、様々なリズムを楽しむことができます。

3 強弱を変えて拍打ちをする。

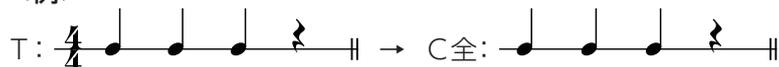
<例> ・ $f \rightarrow p \rightarrow f \rightarrow p$ ・ $f \rightarrow p \rightarrow p \rightarrow p$ ・ $f \rightarrow p \rightarrow p$ (など)

4 リズムのリレー

指導者やリーダーが打つリズムのまねっこをしたり、即興的にリズムをつくらせたりしてリレーする。

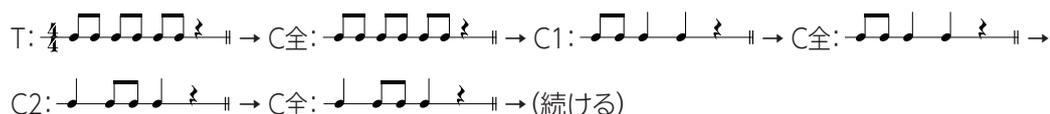
1 指導者が打つリズムのまねっこをする。

<例>



2 指導者やリーダーの打つリズムのまねっこをしてリレーをする。

<例>



ポイント

- ・最初はリズムの終わりの拍を休符にすると、スムーズに回せます。
- ・手拍子の代わりに声や体を使った音、楽器などを用いると、音色の違いを楽しむこともできます。
- ・「手拍子でリレー」は、単純な活動ですが、一人一人が表現できる場であること、子供のアイデアから様々な活動に発展できることなどから、子供が主体的・協働的に学ぶことができます。

題材の学習内容や教材との関連

1 常時的な活動として位置付ける

一人一人が表現する機会を大切にしながら、学習内容に応じて様々なバリエーションの音楽表現を即興的に楽しむ。

● 様々な学年での授業の開始時に行う。

- ①手拍子や体の一部を打って
- ②声を使用して
- ③小物打楽器を使用して

ポイント

- ・授業の始まりでは、拍にのって友達と楽しみながら活動することで、前向きに授業に取り組む雰囲気をつくることができます。また、子供たちを集中させたとき、できるだけ速く手拍子回しを行うと、一体感や達成感を味わうことができ活動にもメリハリが出てきます。

2 題材の学習と関連付ける

題材のねらいに沿った学習活動や表現の仕方を工夫し、拍にのってリレーする。

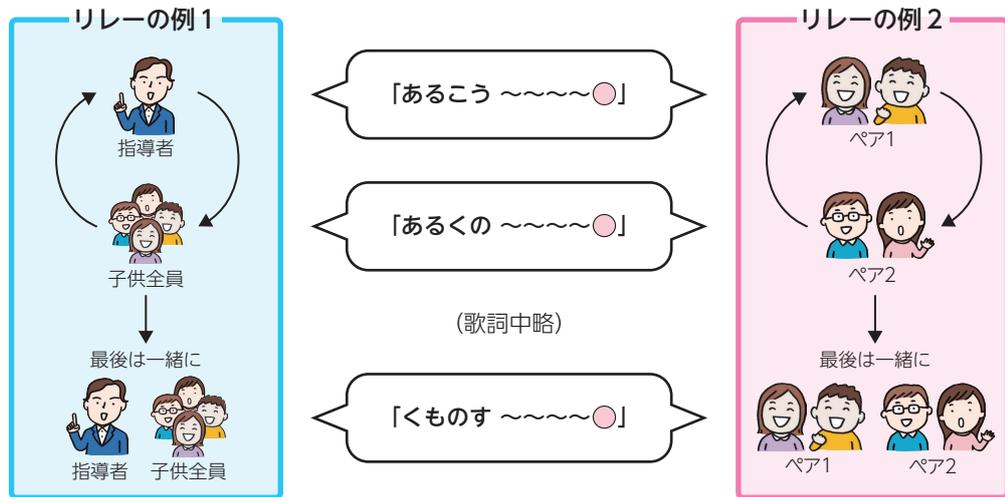
1 第1学年 題材2 『はくを かんじとろう』

「さんぽ」(教科書 P.16)

拍にのって手拍子を打ったり、足踏みをしたりする。

- 1) 鑑賞用CDを聴きながら手拍子を打ったり足踏みをしたりする。

2) フレーズを意識し、教科書P.17の歌詞の○の部分で交替しながら手拍子でリレーする。



「じゃんけんぽん」(教科書 P.18)

2小節ごとに交互唱したり、手拍子やカスタネットなどで拍打ちしたりして、リレーする。

1) 歌に合わせて指導者と子供とで4拍の手拍子でリレーする。

ポイント

- ・列やグループ、ペアなど、子供の人数を変えて指導者の手拍子にこたえるようにすると、強弱に変化が出ます。

2) 指導者と子供一人一人が交互に打ってつなげたり、子供どうしでリレーしたりする。

<例>

ポイント

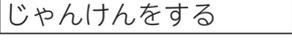
- ・2小節ごとに手拍子だけでなく肩や膝を打ったり、足踏みをしたりすると、まとまりを感じ取りやすくなります。
- ・リレーは、「呼びかけとこたえ」を意識し、次の相手に音を渡す気持ちでつなげるようにします。それを積み重ねることでアンサンブルの力が身に付いていきます。

3) 歌とジェスチャーでリレーする。

歌	ジェスチャーの例
おなかが~~~~	→ 手をグーにしておなかを押さえる
かみのけ~~~~	→ 手をチョキにしてチョキチョキ切る
ほこりを~~~~	→ 手をパーにしてパタパタ叩く
じゃんけんぽんで~~~~	→ じゃんけんをする

- 4) 歌と  のリズムを手拍子やカスタネットなどで打ってリレーする。
- 5) 歌を歌いながら曲の前半部分を  のリズムに変えてリレーする。

<例>

手拍子		→	足踏み	
手拍子		→	足踏み	
手拍子		→	足踏み	
手拍子		→		

ポイント

- ・歌や手拍子、体を使った音などの様々な活動において、 や  のリズムに親しむことで、拍にのって表現しながら拍節感やリズム感を身に付けることができます。

2 第3学年 題材1 『音楽で心をつなげよう』

「リズムでなかよくなろう」(教科書 P.9)

教科書P.9の「リズムのれい」を使ったり自分でつくったりして、リズムでリレーする。

- 1) 即興的にリズムを選んだりつくったりして表現し、リレーする。

<例>



- 2) ペアで「呼びかけ」と「こたえ」に分かれ、即興的にリズムを選んで表現してつなげる。

<例1> 違うリズムでこたえる



<例2> 同じリズムでこたえる



ポイント

- ・A：即興的に表現するグループ、B：拍打ちをするグループ、C：聴くグループなどの役割を決め、交替しながら活動すると、互いの表現のよさに気づきやすくなります。
- ・手拍子や体を使った音、打楽器など様々な音色で楽しむことができます。特に音色に着目したい場合は、拍節的でないリレーにすることで、打楽器の音色の特徴や演奏の仕方などに気付くことができ効果的です。